

表3 国際理解にかかわる年間指導計画（現代社会）

| 学期 | 配当時間 | 東京書籍改訂現代社会 | 国際理解にかかわる事項 | 視聴覚教材 | |
|----|------|--|--|--|---|
| 二期 | 3 | 第3章 現代の民主政治と国際社会 3. 国際平和と人類の福祉 (1)国際社会の展開 (2)国際連合と集団安全保障 (3)国際秩序の変動 (4)核兵器と軍縮問題 (5)人類の福祉と日本の役割 | * 国際法と国際政治の特質に触れながら、国際連合を初めとする世界の様々な機構や組織などの国際平和と人類の福祉をめざす努力を理解させる。 異民族文化 民族間の文化交流 民族学・日本文化と外来文化 現代の国際的文化 | ライブラリー 「砂漠と水と生命」 TVビデオ 教育テレビより収録 ライブラリー 「戦争—子供たちの遺言」 ライブラリー 「マザーテレサの愛」 ライブラリー 「西への旅」 「ライン川の人々の生活」 「日本歴史の流れ」 TVビデオ 教育テレビより収録 | |
| | | | | | 第4章 文化と青年 1. 文化の創造 (2)世界の諸地域の文化と文化交流 (3)日本の伝統文化 (4)現代の文化の問題 |
| | 3 | | | | |
| | 6 | | | | |
| | 3 | | | | |

図ることとした。一つは、「現代社会」が共通一次の必須科目からはずされたことで、受験を意識しない授業の展開が可能になったこと。二つは、学習内容が国際理解のためのすべての領域にわたっていること。三つは、授業の個別化、視覚化、あるいは自由討論などが容易であることなどの理由による。昭和六十一年度は、一年次のさまざまな実践にもつき、特に教材の視覚化に重点を置き、映画やビデオを通して、生徒たちに海外事情をいわば準体験させるカリキュラムを作成した。表3にその年間計画（一部）を示した。

2、英語科

高等学校の学習指導要領では、外国語科の目標を「外国語を理解し、外国語で表現する能力を養うとともに、言語に対する関心を深め、外国の人々の生活やものの見方などについて理解を得させる」としている。これは、高等学校の外国語学習の目的が、意思伝達の必要不可欠な手段である言葉の重要性を知って、言葉を正しく聞き、話し、読み、書く能力を養うだけでなく、扱う題材から、外国の人々の日常生活や風俗習慣などを理解することによって、国際理解の精神の基盤を培うということを意味している。

本校英語科においては、前記の目標にもとづき、表現の能力については、「聞く・話す」が強調される近年の方向を充分考慮に入れるとともに、国際理解を一段と高めるための指導を工夫することとした。

① 習熟度別学習の推進
英語I、一週六時間のうち、二時間を習熟度別学習にあて、低学力生徒の学力向上と、全生徒の英語学習に対する興味をひきだすよう努める。

② 「聞く・話す」領域を重視した指導
昭和五十九年度に、本校英語科が他校と共同研究をした「英語の聞くこと・話すことの研究」を踏まえて実践し、例えば、定期テストにもヒアリングテストを約二十パーセント導入する等の工夫を試みる。

③ 視聴覚教材の活用
教材に関係のあるテレビやラジオ放送を中心に、ライブラリーを作って授業に活用する。

④ 英字新聞、英語雑誌の教材化
国際理解に密接に関連するものを選択して補助教材とする。

⑤ MEFの積極的招へい
音声面の活動に重点を置いた教授法

表4 留学生キムの授業時間割表

| Hour | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|-------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------|--------------------|
| Mon. | English | English | Japanese | S. | S. | S. |
| Tues. | S. | S. | English C | Physical Education | S. | Japanese (by N.S.) |
| Wed. | English 11 | S. | Calligraphy | Calligraphy | Club | L.H.R. |
| Thur. | S. | Japanese (by H.K.) | S. | Japanese (by M.I.) | S. | English 2B |
| Tri. | English 11 | S. | Japanese (by S.O.) | English 11B | S. | S. |
| Sat. | Japanese (by T.M.) | S. | Physical Education | English 11 | | |

S.=Self Study of Japanese Language

の展開によって、コミュニケーションの手段としての英語の重要性を理解させる。

⑥ 各国文化の理解
英語の教科書には、異文化の理解に関する教材が多いので、これを国際理解教育の場としてとらえる授業を工夫する。

⑦ 授業以外の英語教育の推進
英文手紙の指導によって姉妹校等との文通を積極的に行わせたり、修学旅行等で外人との会話を奨励する。また各種英語弁論大会に積極的に参加させる等、生徒の意欲を高めるよう工夫する。